

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	サウンドコンテンツ	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	全専攻	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	授業内で資料プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	川澄 伸一		実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア	
学習目的					
現場にでて実践的な音響やシステムの取り扱いや知識を広げていくことが目的。近年のレコーディングはコンピュータによるDAW化によって手軽なものとなり、簡単な操作をすれば何かしらの音の変化を起こすことが可能となった。しかし、闇雲に音をいじる事は完成時に取り返しの付かない結果を招くこともある。目的とする音作りへの到達は音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。そのための音響基礎の理解を目的とする。					
到達目標					
プロフェッショナルとしての音の扱い方のまとめ。アナログ機器とデジタル機器を平行して学習していくことにより、音の処理を基本的な部分から理解し、音の変化の仕組みもイメージできるようにする。音に関する単位や様々な基本的な数値についてもしっかりと記憶していただき、プロフェッショナル・エンジニアとしての知識を豊富にしていく。近年のデジタル化により音の記録フォーマットも増えているので、これからの新しい技術に対応していくためにもアナログ的な基本技術も理解していくことを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	プリント資料を適時配布し、自分で完成させるワークタイプの物も配布するが、各自で音響関連の用語集を持参することが望ましい。講義形式の授業である。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用する。				
注意点	この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	80%	試験と課題を総合的に評価する。		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	モニターについて		モニター、モニターコントローラーの仕組み、ヘッドホンとスピーカーについて理解する		
2回	5. 1サラウンド		サラウンドシステムの概要ついて理解する		
3回	映画館のサウンド		Dolby,DTS,THXの特徴と違いを理解する		
4回	劇伴収録		映像とレコーディングスタジオの関係がわかる		
5回	音響補正		ピッチ修正とタイミング修正ができる		
6回	様々な楽器収録		ポピュラーから珍しい楽器の収録ができる		
7回	ライブレコーディングシステム		ライブレコーディングとスタジオレコーディングの違いを理解する		
8回	マルチトラックの技術		アナログ時代のテクニック、ノイズ対策、ピンポンなどを理解する		
9回	DTM		DTMの誕生からProToolsの流れを理解する		
10回	マスタリング		アナログ時代～現代のマスタリングを理解する		
11回	エフェクター応用1		イコライザーとコンプレッサーが使えるようになる		
12回	エフェクター応用2		リバーブとディレイが使えるようになる		
13回	エフェクター応用3		モジュレーション、その他エフェクターが使えるようになる		
14回	Voice		人の声の録音と加工の応用、実践例を理解する		
15回	後期まとめ		全体の確認と復習		